

No.671 (改題641号)
2025年
8月27日(水)

新社会兵庫



週刊 新社会

発行所：新社会党
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町2-10 三蔵ビル3F
TEL. 03(6380)9960 FAX. 03(6380)9963

新社会党兵庫本部 神戸市中央区中山手通5丁目2-3 ☎078(361)3613 FAX078(361)3614 毎月第2、第4水曜日発行 購読料月400円(1部200円)郵便振替:01120-7-16805

ひょうご

碑

90 物語

碑は、小泉八雲が神戸に住んでから100年にあたる1994年に、旧居跡とされる兵庫県中央労働センターの玄関前に建てられた。
小泉八雲（ラファディ）
同年8月には、松江の尋常中学校の英語教師に。このあと熊本第五高等学校、神戸クロニクル社勤務を経て、1896年9月からは東京帝大で英文科の講師となる。1903年には後任を夏目漱石に託し、自らは早稲田

小泉八雲旧居跡碑

(神戸市中央区下山手通6)

オ・ハーン)は、ニューオリンズ時代に見た方博や英訳の『古事記』を通じて日本文化に魅了され、1890(明治23)年4月に日本の土を踏んだ。
この間、1896年には、松江時代に知り合った小泉セツと結婚し、日本に帰化。亡くなるまでの14年間に代表作とされる『怪談』や『知られぬ日本の面影』など約30の著作を遺している。また、『耳なし芳一』『雪女』など、口承の説話を記録し海外に紹介した。
碑のある中央労働センター内にある「ひょうご労働図書館」には、「小泉八雲コーナー」が設けられ、神戸時代に執筆した『心』や『佛の畑の落穂』などの著書や関連本が展示されている。



小泉八雲が神戸に居住して100年にあたる1994年に旧居跡とされる県中央労働センターの玄関前に建てられた

【メモ】市営地下鉄山手線・県庁前駅から西へ徒歩5分。
市営地下鉄山手線・県庁前駅から西へ徒歩5分。
市営地下鉄山手線・県庁前駅から西へ徒歩5分。



会合では明石で市民運動に取り組む松本誠さんが自らの経験にもとづいて問題提起を行った＝8月10日、神戸市中央区

社会を変えたSNSの"功罪" 金平茂紀さんが神戸で講演



ジャーナリストの金平茂紀さんを講師に招いた講演会が8月2日、「SNS社会とメディアの使命―森友事件から兵庫ショック―疑惑の真相を追って」と題して神戸市中央区の兵庫県福祉センターで開かれた。主催したのは「憲法を生かす会・東神戸連絡会」で、東灘、灘、中央の3地区が協力して準備を進めてきた。参院選後の間もない時期の開催だったが、兵庫県内をはじめ大阪や奈良からも約90人が参加した。

東灘、灘、中央の3地区の憲法を生かす会が協力して主催した講演会＝8月2日、神戸市中央区

金平茂紀さん



講師の金平茂紀さんはTBSの「報道特集」のキャスターとして知られ、番組を離れた現在も報道現場の第一線で活躍中。講演では、いずれも自殺者まで生んだ森友事件や「兵庫ショック」と金平さん自身が名付けた斎藤知事への内部告発問題に言及しながら、兵庫の出来事が全国規模に広がる原動力になった「SNS

Sの功罪」について、参院選の結果もふまえて詳しく語った。
以下は、その中からの紹介。
1つ目は、戦後史の曲がり角という点。
「今日、一番伝えたいことは、参院選の結果をどう考えるか。自・公の与党が大敗したのに対し、参政党は大きく伸びている。戦争の反省の上に立つて経済活動に邁進してきた日本の戦後政治を否定し、乱暴な主張をする政党内、若い世代や働き盛りの人々を中心に急速に支持が広がった。『民主主義の破壊者を民主主義の手続きで選ぶ』こんなことが許されているのかと思うほどひどいことが起きてしまった。とてもショックな出来事だが、今度の選挙は『戦後史の曲がり角』だと思う。」

王子公園再整備計画の撤回はあきらめない オープンで市民ミーティング

神戸市灘区の王子公園再整備計画をめぐる、行政訴訟も起しながら計画の見直し・撤回を求めて運動を続けている「王子公園・市民ミーティング」実行委員会(小林み子代表)は8月10日、今後の活動の進め方について議論するため、「夏の市民オープンミーティング」を中央区内で開いた。

計画をめぐっては、市民の不安や疑問に答えることなく、9月末には王子スタジアムの土地を関西学院大学に引き渡そうとする状況にある。市民オープンミーティングでは、この間の活動報告がされたのち、明石公園の問題に取り組む松本誠さん(市民まちづくり研究所長)から自身の経験も踏まえた問題提起が行われ、活発に質疑が行われた。
松本さんからは主に2つの提案があった。第1は、神戸市の計画案の問題点をもう一度整理し、その問題点を分かりやすく列挙して訴えを広げること。第2は、王子公園問題は10月の市長選では

2つ目に、コミュニケーションの変容について。「今回の選挙でもSNSが威力を発揮した。SNSの特徴は、①速報性②拡散力、③刺激の絶対値(えげつなさ)だ。『日本人ファースト』『手取りを増やす夏』というようなキャッチコピーが、選挙公報も政見放送も見ない人たちの心に刺さる。若い人の投票率が伸びて前回より6ポイントも押し上げた。自分たちは『政治に参加している』と思っているが、実は大きな世論の『誘導』が起きているという意識などはない。『知る』ことより『信じる』ことを求めている。SNSがコミュニケーションの変容を推し進め、情報の流通の仕方を全く変えてしまった。3つ目は、未来像を伝える努力について。『参政党の党首が街頭演説で『治安維持法っていいよね』と言っていた。そんな政党が支持されるなんて思いもしなかったが、現実を受け止めなければならぬ。これだけ右に寄った国家観を示してくる動きが危険だと思

水脈

街頭での署名行動時に、「何党？」と聞かれたりする経験はしばしばだ。たいいてい「共産党か！」という否定的なニュアンスで、署名はスルーされる▼言うまでもない、ことは被爆と敗戦から80年の節目の年。このかんの活動の弱さを反省しつつ、久しぶりに8月6日と9日、ヒロシマ、ナガサキの日に街頭で、政府に核兵器禁止条約の署名・批准を求める署名行動を行った。せつかつから少しでも目立つようと思って、年甲斐もなく反核平和の火リレー実行委員会がつくったオレンジ色のTシャツを着用して街頭に立ったのだが、それが災いした？▼行動開始早々、年配の女性が「お宅ら、何党？」ときた。「またか！」。でも、少し彼女の言に耳を傾けると、なんと「参政党かと思った」のだと。そういえば、参院選時のかの党のシンボルカラーにTシャツの色はそっくりだった。あらためて参院選で人びとの間にこの排外主義の党がかなり強烈な印象を残していることに愕然とする▼署名は思うように集まらなかったものの、それをヒロシマの日を知らない若者のせいにするわけにはいかない▼参政党など核所有を主張する国会議員数は2桁だ。核廃絶に向け今、我々は今から何をなすべきか。

戦後80年 神戸大空襲を忘れない 次世代に記憶をつなぐ取り組み 神戸空襲を記録する会

終戦・神戸大空襲から80年という節目の年を迎え、神戸空襲を記録する

会（岡村隆弘代表）は「神戸大空襲を忘れない戦後80年、明日へつなぐ



神戸大空襲を忘れず次世代につなぐ戦争と平和を考えるための新しいプロジェクトの取り組みなども報告された集会＝8月10日、神戸市兵庫区

記憶」と題する集会を8月10日、神戸市兵庫区の兵庫津ミュージアムで開き、ビデオ上映や講演を行った。

集会の冒頭、岡村代表は「大空襲から80年、テーマは何よりも記憶を次世代にどうつなぐかだ。この80年、戦争体験者が二度と戦争をさせないという強い思いを持って平和を守ってくれた。80年を機にさらに強い思いを持って平和を守っていかないといけない」とあいさつ。

続いて西村豪さん（尼崎市立歴史博物館・あま

がさきアーカイブス）と馬場敦子さん（記録する会世話人）の2人によって、①USBS（米国戦略爆撃調査団）による報告ビデオの中の神戸関係から神戸空襲の映像を読み解く解説と、②写真で特定の地点を「過去（空襲前）・空襲（直後）・現在の3つの視点から見比べて戦争を考えると、次世代につなぐ写真プロジェクト」の新たな取り組みを進めているという報告が行われた。

さらに講演会では、大戦中の米軍の作戦記録などの研究をもとに工藤洋三さん（空襲・被災を記録する会事務局長）が「アメリカが記録した神戸空襲」と題した講演を行った。講演では、工藤

さんは米軍は空襲前のかなり早い時期から空襲目標となる都市を分類しデータなどを収集していたことを解説。都市に制御不能な大火災を発生させるための焼夷弾空襲を計画し、火災保険の等級から燃えやすい地域の選定とランク付け、爆撃中心点（照準点）の設定、空襲に必要な焼夷弾量の計算をはじめ、綿密な計画を立てていたことや、実際に計画の6倍の量の焼夷弾が使われたことなども詳細に明らかにされた。

被爆80年の夏―― 今年も「原爆と人間」絵画展

広島、長崎の被爆から80年という節目の年の夏、神戸市原爆被害者の会（立川重則会長）は、「原爆と人間」写真・絵画展

を8月7日から12日までの期間、JR神戸駅南の地下街のデュオギャラリーで開いた。同展は、1998年から「戦争の悲

を感じていただくために」と始められたもの。今年も絵画が中心の展示で、広島の高校生が描いた「原爆の絵」は、写真とは異なる迫力と重みをもった戦争の悲惨さや非人間的な残酷さを伝えた。「被爆者が高齢化するなか、被爆の実相を絵画として後世に残すこと、そして、絵の制作を通して、高校生が被爆者の思いを受け継ぎ、平和の尊

いを受け継ぎ、平和の尊さについて考えることを目的として、広島市立基町高校の美術部の生徒が2007年から被爆体験の証言者との共同制作で「原爆の絵」を描き続けてきた。証言者の記憶に残る被爆時の光景を高校生が聞き取り絵にするために、何度も打ち合わせを重ねながら、約1年をかけて当時の惨状を克明に描き出したものだ。展示された絵の横には、描いた高校生と証言者の両者の制作後の感想も添えて紹介されていて、いっそう見た者の胸を打つ。会場前の通路から立ち寄った来場者らもじっと絵に見入っていた。



広島の高校生が被爆体験者の証言を聞きながら共同で制作した絵の展示が静かに、強く戦争の悲惨さを訴えた＝8月11日、神戸市中央区

広島・平和記念式典（8月6日）から

こども代表「平和への誓い」

米国による広島、長崎への原爆投下から80年の今年も8月6日には広島市で平和記念式典、9日には長崎市で平和祈念式典が開かれ、両市の市長がそれぞれ「平和宣言」を発表。

ともに、核兵器保有論の拡大や「核戦争」の危機に懸念を示しながら、核兵器の廃絶と世界恒久平和の実現を呼びかけ、日本政府には日本が核兵器禁止条約の締約国となることを求めた。

一方、石破首相のあいさつは、歴代首相と同様、核禁条約には一言も触れることがなかった。

こうしたなか、広島市での平和記念式典では、「こども代表」によって今年も「平和への誓い」が読み上げられた。

こども代表「平和への誓い」は、被爆50年の式典で初めて述べられて以降継続しているもので、この紙面でも改めて紹介したい。

平和への誓い

【編集部】

いつかはおとされる、被爆者のいない世界。同じ過ちを繰り返さないために、多くの人が事実を知る必要があります。

原子爆弾が投下されたあの日のことを、思い浮かべたことはありますか。

昭和20年（1945年）8月6日 午前8時15分。

この広島に人類初の原子爆弾が投下され、一瞬にして当たり前の日常が消えました。誰なのか分からないくらい皮膚がただれた人々。

涙とともに止まらない、絶望の声。一発の原子爆弾は、多くの命を奪い、人々の

人生を変えたのです。

被爆から80年が経つ、本当は辛くて、思い出したくない記憶を伝えてくださる被爆者の方々から、直接話を聞く機会は少なくなっています。

どんなに時が流れても、あの悲劇を風化させず、記録として被爆者の声を次の世代へ語り継いでいく使命が、私たちにはあります。

世界では、今もどこかで戦争が起きています。大切な人を失い、生きることに絶望している人々がたくさんいます。

その事実を自分のこととして考え、平和について関心をもつこと。

多様性を認め、相手のことを理解しようとする

こと。一人一人が相手の考えに寄り添い、思いやりの心で話し合うことができれば、傷つき、悲しい思いをする人がいなくなるはずです。

周りの人たちのために、ほんの少し行動することが、

いずれ世界の平和につながるのではないのでしょうか。

One voice.

たとえ一つの声でも、学んだ事実を思いを込めて伝えれば、変化をもたらすことができるはずです。

大人だけでなく、こどもである私たちも平和のために行動することができます。

あの日の出来事を、ヒロシマの歴史を、二度と繰り返さないために、

私たちが、被爆者の方々の思いを語り継ぎ、一人一人の声を紡ぎながら、平和を創り上げていきます。

令和7年（2025年）8月6日

こども代表

広島市立皆実小学校6年 関口千恵璃
広島市立祇園小学校6年 佐々木 駿



弾薬庫の8棟増設計画に加えて新たに6棟も追加されることが明らかになった、学研都市の中心部にある陸上自衛隊祝園分屯地の入口

憲法を生かす会・ひょうごネットが運営委員会 10・19祝園現地集会へ取り組み

県内各地の「憲法を生かす会」関係の運動団体

でつくる「憲法を生かす会・ひょうごネット」は、隔月で運営委員会を開き、各地域の運動の交流や運動企画の相談などを行っているが、7月31日に第62回運営委員会を神戸市内で開き、秋に向けた活動計画などを交流し合っ

た。各地域での当面の活動計画として、8月2日に東灘、灘、中央の東神戸3地区の連絡会で主催するジャーナリストの金平茂紀さんの講演会、同23日の憲法あしやの会の総会と交流会、同30日の憲法生かす会・垂水などが主催する高校生平和大使

を招いた「平和のつどい」、10月3日から7日にかけて憲法を生かす北区の会などで行われる実行委員会が主催する恒例の写真展（今年は被爆80年に因んだ「原爆写真展」）などが報告された。同運営委員会では、当面する共闘関係の取り組みについても相談が行われ、9月7日の伊丹市での第14回さようなら原発1000人集会是、呼びかけ団体に加わって取り組みを進めることを確認。さらに、近畿での大きな課題として浮かび上がった祝園（ほうその）分屯地（京都府精華町、京田辺市）の弾薬庫拡張問題（次号で詳報）への取り組みを確認し、10月19日に予定される祝園現地での全関西・全国集会への参加を決めた。

阪神・淡路大震災30年

ユニオン運動の原点ふり返る

神戸ワーカーズユニオンが定期大会

神戸ワーカーズユニオンの第39回定期大会が8月10日、神戸市の中央区文化センターで開かれた。大会テーマは「寄りそう、伝える、備える、ユニオン運動を私が支える」。

のなかでユニオンの原点ともいえる、人の身になって労働相談などに取り組んだことを思い起こしたい」とあいさつ。

大会冒頭、石上敬三委員長は「今年は阪神・淡路大震災から30年。震災

後、木村文貴子書記長から1年間の活動総括と会計報告、25年度活動方針

と予算案の提案に続き、「阪神・淡路から30年、当時の活動を振り返る」として特別報告があった。

解雇をはじめとする労働相談、行政への要請、公的援助法制を求める取り組み、被災地メーデーの開催など、映像を見ながらの報告だった。木村書記長は「もし30年前と同じことが起きて、労働相談を取り組めるユニオンとしてつないでいきたい」と締めくくった。

災害に関連して、ろうこう医療生協分会から災害時に役立つ応急手当の説明があり、新聞紙のスリッパを参加者全員で作った。



大会の中で被害時に備えて新聞紙でスリッパをつくる方法も学んだ＝8月10日、神戸市中央区

質疑討論では各組合員、分会、支部からの活動報告や新組合員の紹介が行われ、提案された議案はすべて承認された。新役

武庫川ユニオン（飯田政志委員長）は7月27日、尼崎市内で第38回定期大会を開いた。

年、昨年の県知事選、組合員のノ瀬さんが残念ながら破れた尼崎市議選、自民が惨敗した参院選など、選挙の話題が絶えない1年だった。参院選で新興右翼政党が勢力を拡大したなか、平和憲法を守り抜き、戦争は絶対に起こさせない力を強くしていかなければならない」などとあいさつ。

つづいて、来賓あいさつとして、尼崎地区労の酒井浩二議長、ひょうごユニオンの岡崎進委員長

イスラエルによるガザ地区への軍事作戦は拡大の一途で、深刻な食糧不足と合わせて、人道危機

300人のユニオン建設を

武庫川ユニオンが定期大会



大会終了後は会場を移して懇親会を開き交流をさらに深めた＝7月27日、尼崎市

ニオン建設を目指し、力強く、しなやかに、明るく、楽しく、楽しい運動を展開していく」とした総会宣言を採択し、「団結ガンバリ」で大会は閉会した。

大会後は、会場を隣室に移して懇親会が開かれた。懇親会では、三線部会による三線の演奏や組合員の「1分近況報告」、お楽しみ抽選会などで大いに楽しんだ。（MI）

てスタンディング行動を続けている「フォーラム平和・人権・環境・ひょうご」は8月12日の夕方、も抗議行動を行い、ガザの実態を市民に訴え、即時停戦を求めるアピールを行った。

同フォーラムは9月9日にはパレスチナ問題に詳しい早稲田大学教授の岡真理さんを招いて神戸市教育会館で講演会を開催する。（加納）

6万人を超えたガザの犠牲者 ガザの即時停戦アピール

フォーラム平和・人権・環境・ひょうご

8月9日にはUNRWA（国連パレスチナ難民救済事業機関）が、ガザでは急性栄養失調の子どもが3月に比べ3倍になっており、「人災による飢饉」と危険な状況を表明。上空から投下した4トンの援助物資が子どもに直撃し、命を落としたという報道も続いた。



毎月第2、第4火曜日にJR元町駅前ですつと続けられているアピール行動＝8月12日

インフォメーション

■垂水 平和のつどい

「なくそう核兵器」高校生が平和への思いを語る

14時～16時◎場所◎垂水区文化センター（レバンテ）3階美術室◎内容◎①DVD上映（入市被爆者、故古石忠臣さんの語る原爆紙芝居）②高校生平和大使3人の活動報告◎資料代500円◎主催◎憲法を生かす会・垂水

1000人集会「原発vs食・農・平和と社会のしくみを変えるために」◎日時◎9月7日（日）14時（開場13時30分）◎場所◎いたみホール・大ホール（阪急伊丹駅北へ3分、JR伊丹駅西へ8分）◎内容◎対談 青木理さん・藤原辰史さん／コーディネーター 西谷文和さん、その他◎前売り800円、当日1000円（35歳以下・介助者は無料、障がい者 避難者は半額）◎主催◎第14回さようなら原発1000

0人集会実行委員会／連絡先090・5040・1118（なんば）

◎日時◎8月30日（土）14時～16時◎場所◎垂水区文化センター（レバンテ）3階美術室◎内容◎①DVD上映（入市被爆者、故古石忠臣さんの語る原爆紙芝居）②高校生平和大使3人の活動報告◎資料代500円◎主催◎憲法を生かす会・垂水

◎日時◎9月9日（火）18時◎場所◎神戸市教育会館6階大ホール◎講師◎岡真理さん（早稲田大学文学部教授、京都大学名誉教授）◎資料代500円◎主催◎フォーラム平和・人権・環境・ひょうご／連絡先078・2222・4747（担当・西岡）

地域ユニオン あちこちあれこれ

労働組合が政治闘争を闘えなくされて久しいが、但馬ユニオンは今回の参院選を、『比例区』かい正康、選挙区』きし文男』

を推薦し、その勝利に向けて新社会党但馬支部と一緒に戦ってきた。組合員に訴えたたたかいの意義は、①生活や労働実態の悪化と軍事大国化を進める自公政治をストップさせること、②仲間と一緒に行動する中で

私たちの労働者運動を理解してもらい組織していくこと。このことを意識して取り組んできた。ちなみに私は、甚でいわれ

を中心に6月8日を統一行動日として配布。各地域での行動には延べ24人が参加した。当初の予定から1人、2人と話をし

増やしてきた。県本部が214カ所、党神崎支部の大野さんが57カ所（+α）をやってく

付し、帰宅したのが午後6時半。なかには、5日間も午前9時から夕方まで行動に参加してくれた組合員もいたり、神戸や舞鶴在住の組合員も参加

は、ユニオンの結成から15年が経つが、毎月一回、不十分でも定例会議（執行委員会）を継続して「学習と意見交換」に取り組んできたことだ。また、月一回は但馬地区内の組合員宅を訪問してきたこともあげられる。

しかし、一票、一票を獲得する活動が大変弱かったことが改めて明らかになり、反省すべき課題となった。

岡田一雄（但馬ユニオン書記長）

15年が経つが、毎月一回、不十分でも定例会議（執行委員会）を継続して「学習と意見交換」に取り組んできたことだ。また、月一回は但馬地区内の組合員宅を訪問してきたこともあげられる。

は、ユニオンの結成から15年が経つが、毎月一回、不十分でも定例会議（執行委員会）を継続して「学習と意見交換」に取り組んできたことだ。また、月一回は但馬地区内の組合員宅を訪問してきたこともあげられる。

若者のひろば

いま毎月1回、『山川菊栄評論集』（鈴木裕子編／岩波文庫）をテキストに学習会をしていて、それがとても面白いです。正確には、灘区の地で社会主義理論研究を長年続けてきた諸先輩方（ほとんどが男性）が主催する定例学習会ですが、党の青年や周辺の仲間などにも積極的に声掛けをされ、5年ほど前から飛び入りで参加した私にとってもありがたい学習と交流の場となっています。テキストによって参加者の入れ替わりはありますが、今回の学習会はオリジナルメンバーに加え、40代女性3人を含む青年が参加しています。

本書には、山川菊栄さんの廃娼論や母性保護論争、労働組合婦人部論争などの主な論争、女性の地位や日本社会などに対する評論が収録されています。全編が「私有財産制度を基にした資本主義社会と同時に、男性による女性支配が階級社会を支えている」という山川菊栄さんの問題意識で貫かれており、論争相手

が誰でも常にか切れ味鋭く、冷静で論理明晰です。また、山川菊栄さんが取り上げている軍国主義・帝国主義時代の社会の諸課題と、現代社会の諸課題が本質的には何も変わっていないことと同時に、社会主義者や活動家らが弾圧され殺された治安維持法の時代に、こんなに明快に権力や封建的な社会構造を批判し、現代よりもよっぽど先進的な主張をしていたことに、一同毎回圧倒されています。

ただ、ズバっと言い切る山川さんの主張に、毎回、順番で担当するレポート

山川菊枝に学ぶ学習会

「ターの受け止め方も様々で、共感したり、「自分には厳しすぎる」と硬直してみてもいいし、自分や家族の話などもたくさん出てきて、議論が活発なのが本学習会の特徴です。

村松さんも参加されており、初回には、山川さんの文筆活動や交友関係、年譜を紹介しながらのオリエンテーションがありました。また、まじめな質問はもちろん、山川菊栄さんや同時代のフェミニスト・伊藤野枝さんの当時のスター性、夫・山川均さんとの関係性など、ミ

シネマランド

太平洋戦争末期の世間の狂気

作品としてはじんまりとしたものになっていて、見えていて少々物足りなさが残った。しかし、人を殺すことが戦争では当たり前になることや、施設の内と外と一体どちらが狂っているのかと問う場面など、監督の戦争への思いがひしひしと伝わってくる作品となっている。ときおりくすくす笑いを誘うシーンがあったり、伝書鳩がもたらすファンタジーが組み込まれていたり、工夫された脚本だった。

ハオト

今年は戦後80年の年。戦後50年は村山談話、60年は小泉談話、70年は安倍談話と10年ごとの節目に首相は閣議決定された談話を内外に発表してきた。それは、先の戦争への反省とともに出されたものだった。80年の節目の今年、石破首相は自民

映画の舞台は、小学校を借りて特異な患者が集められ、表向きには精神病院と称されていた特殊機密施設。患者は、弟・正和（石田隼）が原因で



突然軍を辞め、戦争や軍を批判し精神病扱いをされた元エリート海軍兵の水越（原田龍二）、原子爆弾開発関連に解離性同一障害（多重人格）となった荒俣博士（片岡鶴太郎）、

戦争への道が開かれるときは、世の中が次第に狂ってくる。物事を判断する物差しが歪んでしまふのだと思う。先日、埼玉県鶴ヶ島市で起きたこ

「神戸大空襲を記録する会」は、神戸新聞総合出版センター／2000円＋税

戦後80年、明日へつなぐ記憶

「神戸大空襲」戦後60年から明日へ」という本が2005年に出されました。そこには内橋克人さんの講演、小山仁示さんや室崎益輝さんによる「空襲と震災」、米軍資料から見た神戸空襲、朝鮮人・中国人・連合国軍捕虜の人々の空襲などが取り上げられました。仏画作家豊田和子さんの空襲絵巻や戦災地図も載せられました。

「神戸大空襲」戦後60年から明日へ」という本が2005年に出されました。そこには内橋克人さんの講演、小山仁示さんや室崎益輝さんによる「空襲と震災」、米軍資料から見た神戸空襲、朝鮮人・中国人・連合国軍捕虜の人々の空襲などが取り上げられました。仏画作家豊田和子さんの空襲絵巻や戦災地図も載せられました。

「戦後」を続け、平和を築いていくために、若い仲間と共に取り組んでいきたいのです。（小城智子）

神戸空襲を記録する会の新刊

「戦後」を続け、平和を築いていくために、若い仲間と共に取り組んでいきたいのです。（小城智子）

「戦後」を続け、平和を築いていくために、若い仲間と共に取り組んでいきたいのです。（小城智子）